

窓辺

一富士

宮地 良樹

静岡高時代、腎臓を患ったこともあつて体育会系のクラブ活動ができず、日々の楽しみは食べることだけでした。朝ギリギリまで寝坊して、朝食も取らずにボサボサ頭のまま自転車に飛び乗り、始業時間スレスレに教室に滑り込む毎日で、午前中は空腹感に襲われ、持参したお弁当は2時間目が終わる休み時間に「早弁」して胃袋に収まるのが常でした。

わたたので、当然夕食の間まで血糖値を維持することができず、連日下校途中に高校近くの食堂「一富士」に寄って空腹を癒やしていました。

一富士のメニューは70円のラーメンと50円の焼きそば、そして30円のアイスクリームしかなく、私はそのすべてを平らげる150円の「ブルコース」を毎回注文していたので、小遣いのほとんどを一富士に貢いでいたことになります。店は一世代年長の3姉妹が取り

仕切っており、彼女たちと他愛のないよもやま話をすることも楽しみの一つで、さながら高校生サロンの様相を呈していました。

今から思うと受験勉強のささやかな息抜きのひとときで、ひとしきり会話を楽しむと、自宅に戻って机に向かう気力が湧いたものでした。医師になつてからも何度か再訪しましたが、今はもう閉店しており寂しい限りです。ただ、一富士は渴いた受験生活のささやかな潤いとして、何事にも代えがたい、涙が出るほど懐かしい思い出です。

静岡社会健康医学
大学院 大学長